

第183回 原医研セミナーのご案内

下記のとおりセミナーを開催いたします。多数ご参集ください。

記

日 時：平成28年6月16日（木）午後4時～
場 所：霞総合研究棟 7階 701セミナー室

演 題：染色体転座形成の分子機構の解明
演 者：細胞修復制御研究分野 孫 継英 講師

染色体転座による遺伝情報の改変は、がん、白血病や先天異常の原因となりえる。染色体転座は放射線や化学物質などによる DNA 二本鎖切断 (DSBs) の誘導とその修復エラーにより形成されと考えられている。ゲノム損傷応答の制御にかかわるリン酸化酵素のひとつである ATM の機能欠損は染色体不安定性をもたらすことが知られているが、その詳細については未だ不明である。

我々は、抗がん剤エトポシドによる治療関連性白血病に認められている 11q23 転座をモデルとして、染色体転座を形成する分子機構について解明を進めてきた。その結果、ATM によるゲノム修復因子 RAD51、RPA および ATP 依存的なクロマチン構造再構成因子 INO80 の損傷クロマチンへの結合制御が転座形成抑制に重要であることを明らかにした。本セミナーでは、ATM による INO80 及び INO80 複合体構成因子の制御と染色体転座形成との関連を議論したい。

連絡先： 広島大学霞地区運営支援部総務グループ 082-257-1611 (内線 霞 6532)